

第1章 事業概要

第1節 事業目的及び本報告書について

1-1-1. 目的及び経緯

知的財産を豊富に創造し、これを保護・活用することにより、わが国の経済と文化の持続的な発展を目指す「知的財産立国」の実現には、質の高い知的財産を生み出す仕組みを整え、知的財産を適切に保護し、社会全体で活用する環境整備が重要である。特に、知的創造サイクルを支える人材の育成・確保は急務であり、学校教育を通じた幼少期からの知的財産マインドの涵養、大学等の高等教育機関における知的財産に明るい人材の育成、中小・ベンチャー企業での知的財産制度に対する理解と関心の増進など、国民全体への知的財産制度に対する意識の醸成と知識の向上を図るための環境整備が重要である。

さらに、国民の知的財産意識を向上させるためには、学校教育機関において知財マインドをもった人材の育成を推進することが重要であるが、「知的財産推進計画」との関連で述べれば、これまで「知的財産推進計画第1期(2003～2005年度)、第2期(2006～2008年度)」の基本方針としては、主に権利保護に注力された。その中で、第2期の最終年にあたる平成20(2008)年度計画では、知的財産推進計画2008の「第5章4.国民の知的財産意識を向上させる」において、(1)「学校における知的財産教育を推進すること」、(2)「地域における知的財産教育を推進すること」、(3)知的財産の創造、保護、活用の体験教育を充実すること」が述べられ、同じく、「第5章5.(6)専門高校における知的財産教育を推進する」においては、「工業高校や農業高校などにおける知財教育に関するこれまでの取組事例を活用するとともに、そのような取組の普及と定着を促すため、地域との連携や学校間の連携を取り入れた教育実践プログラムの開発を支援し、専門高校における知財教育を推進する」ことが述べられ、それぞれ活発に推進されてきた。

平成21(2009)年度からの「知的財産推進計画第3期」の基本方針は、知的財産をいかに経済的価値の創出に結びつけるかを重視することとされ、知財教育を推進する中で知財マインドをもった人材を育成することに関しては、第3期初年度の知的財産推進計画2009のⅡ-1-(3)-②において、「地域における知的財産教育を推進すること」が謳われている。

平成22(2010)年の知的財産推進計画2010では、今後の我が国の産業の国際競争力強化のための中枢に位置づけ、新成長戦略と連動し、科学技術政策、情報通信技術政策と一体化してスピード感を持って推進することとして、知財人材育成においても「専門学校や大学と産業界等との連携による、コンテンツ分野等の人材育成に関する枠組みモデルの構築」、「専門学校や大学と産業界等の連携によるプログラム開発の拡大」、「質の高い教育プログラムによるコンテンツ分野等の高度・中堅人材の重点的な養成及び専門学校や大学と産業界等の連携による教育プログラムの改善・更新」などが改善目標として掲げられている。

平成23(2011)年の知的財産推進計画2011においては、東日本大震災への対応を含め、①国際標準化のステージアップ戦略、②知財イノベーション競争戦略、③最先端デジタル・ネットワーク戦略、④クールジャパン戦略の4つを重点戦略として強力に推進するものとして、「知的財産戦略を支える人材の育成・確保」も挙げられている。

平成24(2012)年の知的財産推進計画2012においては、情勢変化と知的財産戦略の新たな挑戦、国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略が打ち出され、その中でも情勢変化と知的財産戦略の新

たな挑戦の中の「3. 新時代に立ち向かう知的財産戦略の新たな挑戦」においては、「知財イノベーションのための総合戦略を協力を推進する。」とし、更に「最先端の知財マネジメント人材を養成する場の形成や知財マネジメント戦略研究拠点の整備を含め、新たな時代に対応する知財人材を加速的に育成・確保する「知財人材育成プラン」を強力に実行する。」とされている。

一方で、国際競争力強化に資する2つの知的財産総合戦略の中では、「1. ③次世代の知財人材を育成し確保する。」として、国内の知的財産権の取得・維持・管理に直接的に関わる「知財専門人材」の育成と併せて、イノベーション戦略に基づきグローバルにイノベーションを創出し、国際競争力の強化に資するような形で、事業戦略に巧みに適切かつ先行的・実践的に知財を活用できる「知財活用人材(知財マネジメント人材)」にまで、知財人材の育成の重点を広げなければならないとしている。

平成25(2013)年の知的財産推進計画2013では、「3. グローバル知財人材の育成・確保が上げられており、更に平成26(2014)年の知的財産推進計画2014では、「6. 政府が中心となった人材育成の場の整備」として、政府が主導的な役割を果たして知財人材の育成を行う場の整備を早急かつ着実に進めていくべきであるとしている。

平成27(2015)年の知的財産推進計画2015では、「8. 知財人材の戦略的な育成・活用」のなかで、知財教育の推進について記載されている。

平成28(2016)年の知的財産推進計画2016では、前年度に取り上げられた知財教育の推進から進展し、「知財教育タスクフォース」を設置して、社会と協働した知財教育の推進の在り方について議論を行い、今後、我が国が知財教育を推進していくに当たっての求められる方向性が3点整理された。

- ① “国民一人ひとりが知財人材” を目指した発達の段階に応じた系統的な教育の実施
- ② 社会との関わりや知識の活用を視野に入れた創造性の発展のための仕掛け
- ③ 地域・社会との協働(産学官連携による支援体制構築)の実現

平成29(2017)年の知的財産推進計画2017では、「Ⅱ. 知財の潜在力を活用した地方創生とイノベーション推進 3. 「国民一人ひとりが知財人材」を目指す知財教育・知財人材育成の推進」の項目が掲げられ、その項目における現状と課題として「発達の段階に応じて、新たな発見や思考の源泉となる創造性を育むとともに、知的財産の保護・活用の重要性に対する理解の増進と態度形成を図り、もって知的財産の創造に始まり、保護・活用に至る知的創造サイクルの好循環を生み出すための人材を育む教育(知財創造教育)」の全国的な普及を推進することが求められている。

平成30(2018)年の知的財産推進計画では、「2. 知的財産推進計画2018重点事項 (1)これからの時代に対応した人材・ビジネスを育てる ④知財創造教育・知財人材育成の推進」において、「イノベーションの創出のためには、新しいものを創造する人材や、創造されたものを活用したり他の様々なものと組み合わせたりして、新しい価値を生み出す仕組みをデザインできる人材が必要である。」「今後は、知財創造教育を一層教育現場に浸透させるための取組を行うとともに、高等学校における知財創造教育の体系化や、現場の教職員が知財創造教育を実践できるようにするための支援方策について検討することが求められる。」とされている。

その他教育現場においては、高等学校における新学習指導要領が平成30(2018)年3月に公示され、

同要領において、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちが急速に変化し予測不可能な社会において自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成する」ことが基本的な考え方の一つとされている。「高等学校においては、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探求を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまで以上に求められる」として、「①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等」の「資質・能力の三つの柱が、偏りなく実現されるよう、・・・授業改善を図ること」とされ、例えば、理数教育においては、「将来、学術研究を通じた知の創出をもたらすことができる創造性豊かな人材の育成を目指し、新たな探求的科目として、「理数探究基礎」及び「理数探究」が新設された。この新高等学校学習指導要領は令和4年(2022)年4月1日以降の「第1学年に入学した生徒(略)」に係る教育課程及び全課程の修了の認定から適用」されることとなっており、今後、高等学校における知的財産教育を通じた知財マインドをもった人材の育成の取組みは、一層促進されることが考えられる。

このような流れに先立ち、「知財力開発校支援事業(以下、「本事業」という。)」の前身となる事業として、平成12(2000)年度に「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」が開始された。平成12年度には工業高等学校を対象に事業が実施され、その後、高等専門学校(平成13(2001)年度から実施)、商業高等学校(平成14(2002)年度から実施)、農業高等学校(平成15(2003)年度から実施)においても順次実施された。その後、平成20(2008)年度より全国の高等学校(専門学科)及び高等専門学校における知財マインドを持った人材の育成の一層の充実を図るため、これまでの事業名称を「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」として実施してきた。

この平成12(2000)年度から平成22(2010)年度にかけて実施された「産業財産権標準テキスト」の活用を軸とする事業は、事業実施期間中に多くの成果・実践例を生み出し、我が国における高等学校(専門学科)及び高等専門学校における知財人材の育成(知財教育)の発展に大きな役割を果たしてきた。

そして、平成23(2011)年度からは、産業界からの人材育成に関する要望や、政府の人材育成政策に応えるため、近い将来企業等で活躍することが見込まれる「明日の産業人材」を育成する「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業(以下、「開発事業」という。)」を新たに展開している。

本事業においては、知的財産権制度に関する理解を深めていく過程において生徒・学生が創作した発明・意匠・商標についてのアイデアを地域の専門家(弁理士等)とのコンサルテーションや地元企業等との連携等により知的財産としていく過程を模擬的な出願書類の作成、試作品の作成、地元企業等との連携を通じた商品の開発等、知的財産権の取得に向けて必要となる活動の体験などの実践の場を通じて知的創造力や実践力・活用力を育む取組を行うことを支援している。また、平成26(2014)年度からは、知的財産に関する創造力・実践力・活用力に関する実践的な能力を養成する取組の導入と基本的な知識の習得を目指す取組の計画を策定し、その実践を通じて組織的な取組として定着を図っていくことを目的とした「導入・定着型」と、開発事業において知的財産学習の組織的な推進体制ができ、既に知的財産学習が定着し、新たな特徴ある取組にチャレンジする学校を最大3年間支援することを目的とした「展開型」に区分して事業が実施された。

令和2(2020)年度からは、全国の高等学校(専門学科)及び高等専門学校を対象に、生徒・学生が、身の回りのアイデアが社会では知的財産権として保護されていることや、ビジネスの中で権利として活用されていることの実態に触れながら、知的財産の保護や権利の活用についての知識や情意、態度を育む特色

ある学校の知財学習の取組を支援する「知財力開発校支援事業」が「開発事業(令和3年度迄をもって終了)」の後身の事業として新たに実施されている。

令和6(2024)年度からは、「知財力開発校支援事業」の参加校の対象が普通科高校にも拡大された。

1-1-2. 本報告書の内容

知財マインドを持った人材の育成とその取組の普及や定着を図るために、参加校における生徒又は学生が知的財産に関する知識の習得や創造力及び実践力・活用力を育む過程について分析するとともに、取組を通しての地域や関係機関からの支援や連携の状況の具体的な事例を収集してとりまとめを行ったものである。

各学校の実践活動は、1年間にわたる取組であり、この報告書は、参加校からの年間指導報告書や教員に対するアンケート結果等を元に作成している。

1-1-3. 参加学校数の推移

前身の事業となる「産業財産権標準テキストの有効活用に関する実験協力校事業」(平成19年度以前)、「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校事業」(平成20～22年度)及び「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」(平成23～令和3年度)も含めた参加校数(延べ数)は、下記の表およびグラフのとおりである。

表1-1-1 参加校数の推移

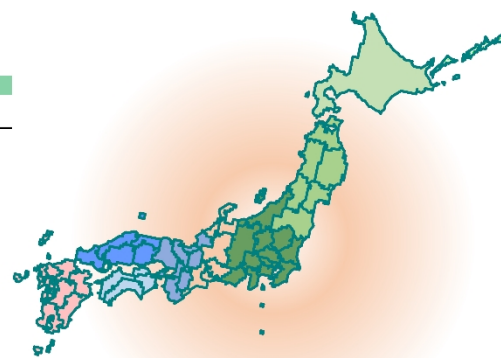
実施年度	H17 以前	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	合計 (延べ 数)
普通	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14	14
農業	46	18	13	9	6	12	10	13	13	10	15	15	9	3	1	3	3	5	4	4	212
工業	295	44	39	23	25	34	39	48	53	48	48	39	36	25	22	21 (6)	16 (4)	17	22	16	910
商業	68	31	23	10	10	13	11	21	28	19	24	20	21	12	10	7 (1)	7	6	4	4	349
水産	—	—	—	—	—	2	3	5	5	7	7	5	8	5	5	5 (1)	6	5	6	3	77
家庭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	0	1	2
情報	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	2	6
福祉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
高等学校 合計	409	93	75	42	41	61	63	87	99	84	94	79	74	45	38	37	34	34	37	45	1571
高等 専門学校	65	13	15	17	15	19	14	13	14	16	9	10	8	7	4	4	4	4	5	3	259
全合計	474	106	90	59	56	80	77	100	113	100	103	89	82	52	42	41	38	38	42	48	1830

※令和2・3年度の()内の数字は、開発事業参加校の参加校数を内数として示している。

図1-1-1 令和6年度参加校の分布

令和6年度 採択校の校種・地区

普通 14校	農業 4校	工業 16校
商業 4校	水産 3校	家庭 1校
情報 2校	福祉 1校	高専 3校
計：48校		



北海道地区——4校

- 札幌日本大学高等学校
- 東海大学付属札幌高等学校
- 北海道更別農業高等学校
- 旭川工業高等専門学校

東北地区——7校

- 聖光学院高等学校
- 宮城県工業高等学校
- 秋田県立湯沢翔北高等学校
- 宮城県南三陸高等学校
- 山形県立天童高等学校
- 東奥学園高等学校
- 一関工業高等専門学校

関東地区——10校

- 東海大学付属相模高等学校
- 東海大学付属市原望洋高等学校
- 東海大学付属高輪台高等学校
- 玉川学園高等部
- 東京都立深沢高等学校
- 群馬県立前橋工業高等学校
- 東京都立多摩科学技術高等学校
- 静岡県立遠江総合高等学校
- 東京都立第五商業高等学校
- 千葉県立柏の葉高等学校

中部地区——5校

- 岐阜県立岐阜農林高等学校
- 富山県立富山工業高等学校
- 岐阜県立岐阜工業高等学校
- 岐阜県立岐南工業高等学校
- 愛知県立三谷水産高等学校

近畿地区——8校

- 福井県立高志高等学校
- 常翔学園高等学校
- 大阪府立農芸高等学校
- 大阪府立佐野工科高等学校
- 大阪府立工芸高等学校
- 大阪府立淀川商業高等学校
- 兵庫県立長田商業高等学校
- 兵庫県立香住高等学校

中国地区——6校

- 岡山県立岡山芳泉高等学校
- 広島工業大学高等学校
- 広島県瀬戸内高等学校
- 山口県立徳山商工高等学校
- 山口県立田布施農工高等学校
- 大島商船高等専門学校

四国地区——3校

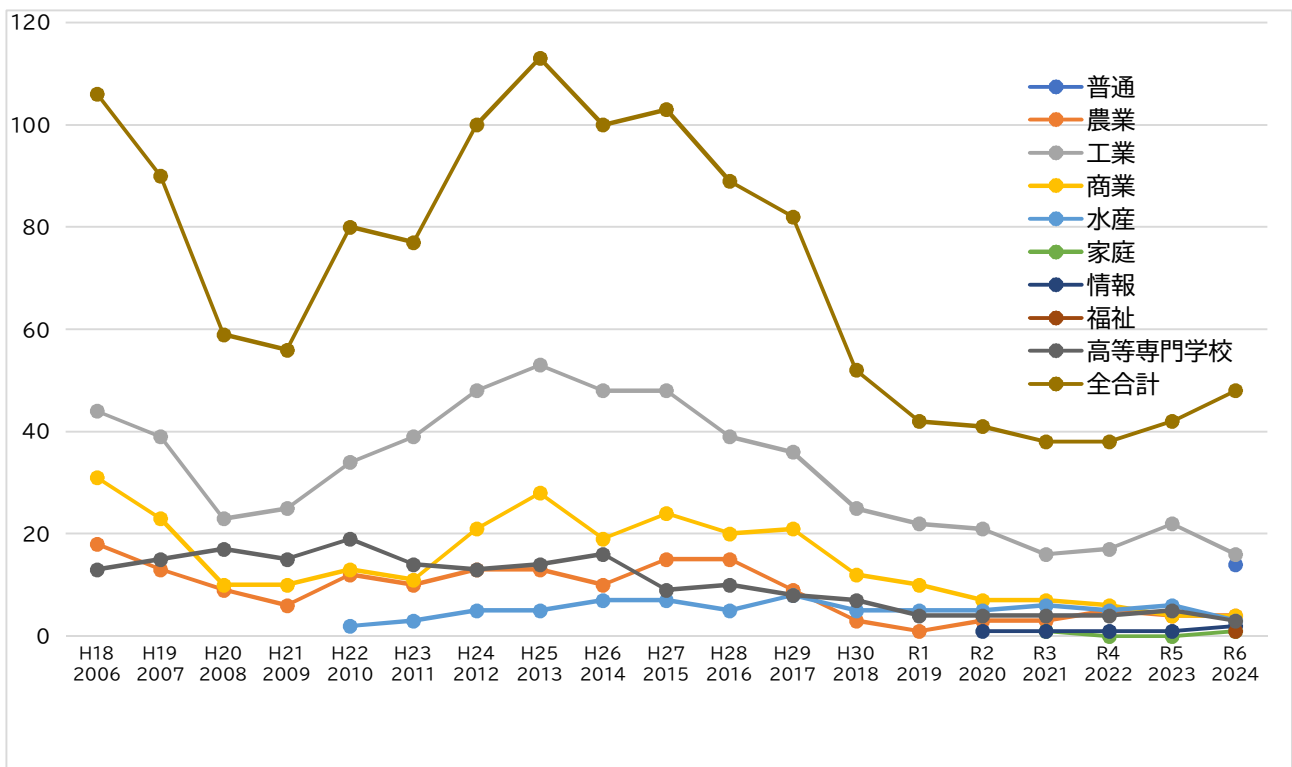
- 徳島市立高等学校
- 香川県立多度津高等学校
- 愛媛県立宇和島水産高等学校

九州地区——5校

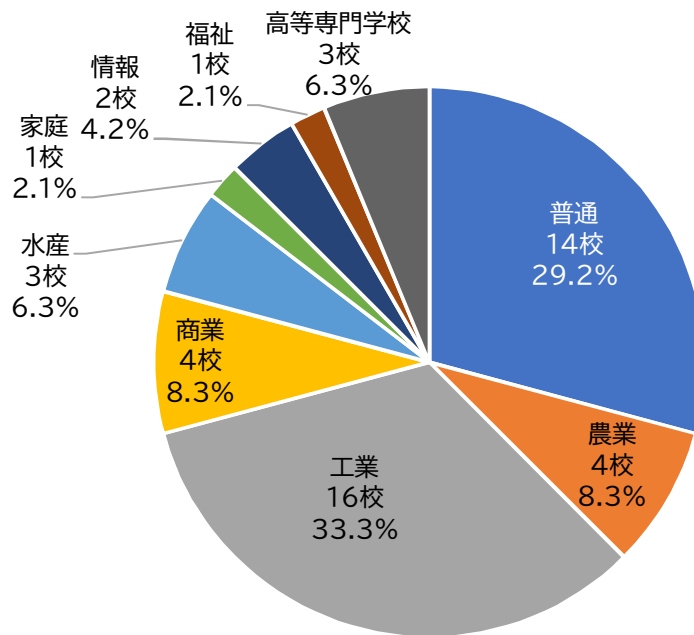
- 熊本県立熊本農業高等学校
- 大分県立中津東高等学校
- 大分県立大分工業高等学校
- 鹿児島県立鹿児島工業高等学校
- 大分県立情報科学高等学校

(○印は、令和6年度新規参加校)

図1-1-2 校種別参加校数の推移



R6年度内訳(全48校)



第2節 参加校の指導対象・取組内容

令和 6 度参加校(普通14校、農業4校、工業16校、商業4校、水産3校、家庭1校、情報2校、福祉1校、高等専門学校3校 合計48校)の指導対象・取組内容(取組の目的・目標の要約)を記す。

表1-2-1各校の指導対象・取組内容

普通

学校 番号	学校名	学 年	学科	科目／ 形態	・取組内容(目的・目標要約)
普 01	札幌日本大学 高等学校	2	普通科	ST 未来 創造/ クラス別	・「問いづくり」アイデア発想ワークショップ ・知的財産権の基礎を学ぶ ・知財学習プログラムの充実と改善
普 02	東海大学付属 札幌高等学校	1	普通	高校現代 文明論(総 合的な探 究の時間)	・福祉に貢献する発明品を考えよう ・知的財産権に関する講演 ・知的財産教育に関するセミナー ・先進校視察
		3	普通	LHR	
普 03	聖光学院 高等学校	1	普通科	学校設定 科目:探究 I	・法律とは何か ・知的財産法とは何か ・アイデアの発想の型を学ぼう ・創造力とは何か ・まち歩き(桑折町) ・社会で必要なアイデアとは何か ・地域の素材を使った商品開発 ・アイデアを駆使した学校ルールメイキング ・地域での市場調査(伊達市) ・企画書の作成・提出 ・ルールメイキング(学校) ・パスボム(株式会社グリーディ)
普 04	東海大学付属 相模高等学校	1	普通科	総合的な 探究の時 間および LHR	・新商品開発とクラス発表会 ・サンコー株式会社の広報の方による講演 ・おからグラノーラ開発者の講演 ・問題解決のためのクラス発表会 ・文化祭の模擬店で使用する看板・装飾の作成 ・著作権に関する講座 ・個人探究のレポート作成と発表会
		2	普通科	総合的な 探究の時 間および LHR	
		3	普通科	総合的な 探究の時 間および LHR	
普 05	東海大学付属 市原望洋 高等学校	1	普通科	高校現代 文明論/ 授業形態	・身近な便利なグッズ(商品)から、知的財産を知ろう ・アイデア商品を提案しよう ・起業家精神を理解する ・知的財産教育についての研究
		2	普通科	総合的な 探究の時 間/ 授業形態	
		3	普通科	総合的な 探究の時 間/ 授業形態	

普 06	東海大学付属高輪台高等学校	1	普通科	高校現代文明論	- 知的財産の尊重に関するレクチャー - 知的財産の尊重に関するワークショップ - 知的財産の尊重に関する生徒研修(JX金属本社等) - 知的財産の尊重に関するディベート - 知的財産の創造に関する往訪型の教員研修 - 知的財産の創造に関する内化 - 知的財産の創造に関する生徒研修
		2	普通科	総合的な探究の時間	
		3	普通科	特別講座	
普 07	学校法人玉川学園 玉川学園高等部	3	普通	SDGs 演習/授業	- シンガポール南洋理工大学佐藤教授による講義 - 情報の授業における『閃きの番人』の教材利用 - シンガポール南洋理工大学佐藤教授の研究室訪問 - パテントコンテストへの挑戦 - Show and Tell プレゼンテーションコンテストへの挑戦 - その他コンテストに向けた取り組み 3D プリンタの活用講座 - 工具の使い方・加工方法等の講義 - ビジネスプラン講座
		1～3	普通	総合的な探究の時間/授業	
		1～3	普通	課外活動	
普 08	東京都立深沢高等学校	1～3	普通科	スキルアップ講座	- アカデミックセミナー(講演授業) - インターンシップ(企業の知財調査) - 職業人講話(企業担当者による講演) - 深沢ビジネスプロジェクト生徒による知的財産の必要性に関するワークショップ - 知的財産に関する基礎知識の学び - 企業および知的財産に関する機関への訪問 - 各学校等の知的財産教育の調査 - 本校の1学年への取り組み発表
		2	普通科	深沢ビジネスプロジェクト	
普 09	福井県立高志高等学校	1	探究創造科	美術	- 知的財産権とはなにか？ - 知的財産権はどのように守られているか？ - 分かりやすく説明しよう① - 分かりやすく説明しよう②
		1	探究創造科	課題研究	
		2	人文創造科	課題研究(知財講座)	
普 10	常翔学園高等学校	2	普通科	ガリレオプラン探究Ⅱ/講義	- 導入段階(1学期):大学教授による講義および PBL - 中盤(2学期):グループワーク、企業訪問 - 知財教育分科会への参加
普 11	岡山県立岡山芳泉高等学校	2	普通科	総合的な探究の時間/一斉	- 企業訪問(内山工業株式会社赤坂研究所) - 模型作成講座 - 研究会への教員参加 - せとうち国際特許事務所 中務茂樹弁理士による講演会 - 山口大学 陳内秀樹准教授による知財関連の法について学ぶ講座 - ボードゲームで知的財産を学ぶ講座・授業 - 総合的な探究の時間における個人研究ガイダンス - ポスターセッション - 成果物作成
		1	普通科	総合的な探究の時間/一斉	
		1～3	普通科	課外活動	
普 12	学校法人鶴学園 広島工業大学高等学校	2	K-STEAM 類型	STEAMⅡ(総合的な探究の時間)	- 浮かんだアイデアを知財方面の視点から検証する方法を学ぶ - ものづくり関連コンテスト参加への取り組み - ノベルティグッズを作ろう(校内コンテスト実施)
普 13	広島県瀬戸内高等学校	2	普通科	総合的な探究の時間	- 県立広島大学教員による講演会 - 株式会社ジブンノオト 大野圭司代表取締役講演会 - パテントコンテストに向けて
		3	普通科	総合的な探究の時間	
普 14	徳島市立高等学校	1～2	理数科	理数探究	- 理数科セミナー(京都) - 理数探究Ⅰ - 医学部講座 - 理数科セミナー(東京) - 理数探究Ⅱ - 徳島 innovation
		2	普通科	総合的な探究の時間	

農業

学校 番号	学校名	学年	学科	科目／形 態	取組内容(目的・目標要約)
農 01	北海道更別 農業高等学校	2～3	農業科、 生活科 学科	総合実習、 課題研究 ／分会活 動	- 本校で取り組んでいるさつまいも栽培が知的財産に抵触していないか理解させる - 身近な商品がどのように知的財産権に保護されているか理解させる - バルサミコ酢風調味料販売に向けて商品ラベルが知的財産権に抵触していないか理解させる ①GABA生成酢酸菌の採取と培養方法を理解させる ②GABA生成酢酸菌の採取、培養技術が知的財産権に抵触していないか理解させる ①本校で採取したナタデココ菌、乳酸菌、酢酸菌の培養技術が知的財産権に抵触していないか理解させる ②採取した、酢酸菌、ナタデココ菌、乳酸菌を用いた食品を製造する場合、知的財産権に抵触していないか理解させる
		1	農業科、 生活科 学科	農業と情 報	①バルサミコ酢風調味料の製造工程の確立を目指す ②バルサミコ酢風調味料の製造工程が知的財産に抵触していないか理解させる ③本校で開発したバルサミコ酢風調味料の製造工程を保護する方法を理解させる ①パテントコンテストについて理解させる ②パテントコンテスト出願方法について理解させる - パテントコンテスト出願書類の作成方法を理解させる - 令和6年度知財力開発事業年次報告会へ参加し、各校の取組みを理解させる ①知的財産権とは何かを理解させる ②実生活の中で知的財産権の保護、活用がどのように行われているか理解させる
農 02	岐阜県立岐 阜農林高等 学校	1	流通科 学科	食品流通 座学	- ペーパータワーの作成 - KJ 法を用いた創造性の学習
		1～3	園芸科 学科	野菜 実 習	「もの」の価値を考える学習 - 発明と知財活用の基礎(合同授業) - 商品や社会、情報活用
		1～3	動物科 学科	食品加工 実習	- 商品や社会、情報活用 - 知財セミナー(中野先生)と振り返り - 知財セミナー(烏谷先生)と振り返り - 知財セミナー(若松先生)と振り返り
		1～3	生物工 学科	植物バイ オテクノロ ジー 座学	- 知財セミナー(陳内先生)と振り返り - 商品開発と普及
農 03	大阪府立農 芸高等学校	1	ハitek 農芸科	農業と環 境、農業と 情報など	- 科目園芸流通にて、アイデア創出の手法について教え、実際に実践した。その際購入した物品を使い、作品等を作成した。 - 科目総合実習や課題研究にてアイデア創出の手法を活用させた - 自分たちで作成した商品のマーケティングを行い、情報発信ツールを作成し、活用した - キャニオンズバイスを訪問し、地元が誇る知的財産が生まれた歴史や経緯の講話を聴き、自分たちのアイデアを形にする - カップヌードルミュージアムを訪問し、日本が誇る知的財産について、実際に製造過程を学び、体験した。知的財産の普及について関心を持った - 模擬商標を作り、実際に活用した場合どのような効果があるかについて模擬商標を見ながらグループディスカッションを行った - Agrifes のロゴについて商標登録するために、先使用权について学び、実際に制作物を作成し、多くの方から意見を伺った
		2	ハitek 農芸科	植物と人 間、栽培技 術など	
		3	ハitek 農芸科	園芸流通、 課題研究 など	
		3	ハitek 農芸科	農業経営	
		全	全学科	部活動	
農 04	熊本県立熊 本農業高等 学校	3	畜産科	課題研究	- 畜産物のマーケティング及びブランド力の強化について 「事例から学ぶ知財マインドを持った探究学習の進め方 - 課題研究中発表会
		2	畜産科	課題研究	- 研究会参加 - 畜産物のブランディングに向けたリーフレット作成研修 - 課題研究発表会 - 全国知財創造実践甲子園 2024 に向けた学習会

工業

学校番号	学校名	学年	学科	科目／形態	取組内容(目的・目標要約)
工 01	宮城県工業高等学校	3	情報技術科	課題研究 (総合的な探究の時間)	- 日常生活の「困った」を自分の課題とする明確な課題意識の育成(知財担当教員による知財講話) - ものづくり(総合的な探究の時間(課題研究)) 「探究とは何か」の明確化、テーマ設定のコツ - 気づきと自分の課題としてとらえる意識の醸成(知財担当教員による知財講話) - ものづくり・研究(化工部) - 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ出展(東北大学) - 第34回全国産業教育フェア栃木大会参加 - ものづくり・研究(情報研究部) - 第62回技能五輪全国大会 ウェブデザイン職種 銀賞 - 第19回若年者ものづくり競技大会 - 業務用ITソフトウェアソリューションズ職種 金賞 - ものづくり・研究(自動車部) - 全国ソーラーラジコンカーコンテスト in 白山参加 - 新潟大学 三俣哲准教授による講話 - 高分子磁性ゲル、天然高分子吸収材料を用いた企業との共同研究(製品開発)について - ものづくり・研究(化学工業科) - 高校生ものづくりコンテスト東北大会 化学分析部門において第三位に入賞 - 製品開発の成功の鍵(問題解決の糸口を知る) - 気づきと自分の課題としてとらえる意識の醸成 - 知財担当教員および外部講師による講話 - 宮城県が抱える問題をデジタルの力で解決を目指す - 地元企業との連携(出前授業) - オープンデータを利用した社会課題の解決と社会実装するための考え方 - 発明体験ワークショップ参加 - パテントコンテストへの布石 - コンテスト応募 - パテントコンテストへの応募 - 気づきと自分の課題としてとらえる意識の醸成 - 知財担当教員による講話および授業展開 - 全校生徒への技術的な新聞記事の紹介 - 河北新報の技術の記事を特集、編集し配付、あらゆる技術で「何ができるか」を知る、技術による社会課題の解決、進路選択への一助 - 著作権講話「楽しく学ぶ著作権」
		2	情報技術科	情報技術実習	
		1	情報技術科	工業技術基礎	
		3	機械科	課題研究 (総合的な探究の時間)	
		3	化学工業科	課題研究 (総合的な探究の時間)	
		2	化学工業科	化学工業実習	
		1	化学工業科	化学工業実習	
		全	情報技術研究部	部活動	
		全	自動車部	部活動	
		全	化工部	部活動	
		全	図書部	LHR	
工 02	秋田県立湯沢翔北高等学校	1	専攻科生産技術科	産業社会学	- 弁理士を招いた特別授業① - 新しい福祉機器の設計と開発(調査、研究、構想、設計) - 新しい福祉機器の設計と開発(試作、改良) - 新しい福祉機器の設計と開発(試作、改良、応募) - 弁理士を招いた特別授業② - 地域資源を活用した新製品の開発(ハート形の型の試作) - パテントコンテストへの応募
		2	専攻科生産技術科	産業社会学、RP実習、CAD/CAM実習	
工 03	群馬県立前橋工業高等学校	1	機械科	工業技術基礎・製図	「工業技術基礎」ならびに「工業情報数理」、「機械工作」での授業 - 弁理士による特別授業 - 製品作りのいろはを学ぶ - プロダクトデザインコンテスト応募に向けた学習、製作 - 社会における知財の現状について学ぶ - パテント、デザインパテントコンテストへの応募にむけた学習 - 河川環境調査を通して知財を学ぶ
		2	機械科	機械工作	
		3	機械科	機械工作	
		3	機械科	課題研究	
		3	土木課	課題研究	

工 04	東京都立多摩科学技術高等学校	1	科学技術科	科学技術と人間	- 知的財産の概念の理解 - 実習等において知的財産権について学ぶ - 発想訓練において創意工夫するアイデアを考える - アイデアの文書化 - 課題研究における研究活動 - パテントコンテスト参加 - 課題研究発表会
		2	科学技術科	課題研究	
		3	科学技術科	卒業研究	
工 05	富山県立富山工業高等学校	2	電気工学科	特別講義・ものづくり学／講義、グループワーク	- 知的財産の基礎学習として、知的財産に関する書籍や作成教材などを使用し、教職員および生徒が知的財産を理解して知見を深める取り組みを実施した - 知財実務外部講師として弁理士を招聘して、企業活動や実生活を踏まえた知的財産の活用について教示して頂いた - 電気工学科の課題研究班において「電気を使って何か新しいものを作ろう」というテーマで、新規発明の創出に取り組み、実際に試作品 3 点を製作した
		3	電気工学科	課題研究	
工 06	岐阜県立岐阜工業高等学校	3	航空機械工学科	課題研究／グループ毎	- 税関見学(名古屋税関合同庁舎) - ロボットテクノロジージャパン(Aichi Sky Expo) - 諏訪圏工業メッセ 2024(岡谷市総合体育館等) - 秋田県立由利工業高校・秋田県立大学等 見学 - 国立印刷局 彦根工場 - パテントコンテスト・デザインパテントコンテストへの参加・応募 - モノづくり教室、ワークショップの実施 - ビジネスプランの構築や、メディカルクリエーション等について考える。 - 第4回高校生 3D デザイン・3D プリントコンテスト参加 - ソリューションシステムを構成する機器などについて学ぶ - 校種間連携と技術的ブレイクスルーをテーマとした新規マーケティング参入 - 研究会・報告会への参加
		2	航空機械工学科	実習／クラス	
		3	設備システム工学科	課題研究／グループ毎	
		全	岐阜エテック LAB	部活動	
工 07	岐阜県立岐南工業高等学校	1～2	電気工学科	実習/講演	- 企業で活用されている知的財産の講演 - 知的財産を学び、アイデアを生み出す講演 - 試作品製作(コンテスト用) - 応募書類作成 - 商品化について模索する - 試作品製作(商品化用) - サイト制作活動 - 税関見学
		1	電子工学科	実習/講演	
		1～3	電気研究会・電子研究会	部活動/ワークショップ	
		2	電気研究会・電子研究会	部活動/多様な形態	
工 08	静岡県立遠江総合高等学校	1	1 年次生	科目「産業社会と人間」	- 知的財産に関する基礎知識の学習 - アイデア創造活動 - ブレ課題研究&アイデア創造 - 課題研究 - 他校連携
		2	2 年次工業系列	電子情報系列・機械技術系列	
		3	3 年次工業系列	電子情報系列・機械技術系列	
工 09	大阪府立佐野工科高等学校	2	製品開発専科	製品開発 I	- 産業財産権・アイデア創出 - 企画・プレゼンテーション - 調査・統計
		2	テキスタイルデザイン専科	製品開発 I	

工10	大阪府立工芸高等学校	3	ビジュアルデザイン科	デザイン概論/実習	- 講師による事例紹介、助言指導・講評を得ることで、知識・技能の研鑽を図る - 商標登録の作品制作 - 実習作品での知的財産権の利用について講師による講習、著作物の利用方法を学ぶ。助言指導を得ることで、知識・技能の研鑽を図る。 - 映像デザイン科での講義に関連しての教員研修 - オリジナル作品を制作し、知的財産権の利用方法を実践的に学ぶ - 知的財産に関わる講師招聘。絵画・彫刻・デザインにおいての知的財産と知識を学ぶ - 知的財産を学び、自身の活動に役立てる実習で模倣とオリジナリティの違いを学ぶ - 知的財産に関わる講師招聘。絵画・彫刻・デザインにおいての知的財産と知識を学ぶ - 知的財産を学び、自身の活動に役立てる実習で模倣とオリジナリティの違いを学ぶ - デザイン思考で協働的なものづくり(課題研究) 3年(課題研究)教具制作および商品開発に関わる講師招聘 3年(課題研究)教具制作および作品制作に関わる生徒の交流企業・交流校訪問 1年情報工業数理における知的財産の学び 2年インテリア実習における作品制作と知的財産の学び - 知財力発表。3年課題研究における教具制作および作品制作について
		3	映像デザイン科	ビデオ実習/実習	
		3	美術科	美術実習/実習	
		2	美術科	美術実習/実習	
		3	インテリアデザイン科	課題研究/実習	
		2	インテリアデザイン科	インテリア実習/実習	
		1	インテリアデザイン科	工業情報数理	
工11	山口県立徳山商工高等学校	3	機械科	生産システム	- 教室に知財文庫設置 - 知的財産の基礎 - チームで創造(ブレインストーミング・フレームワーク等) - J-PlatPat の使い方 - パテントコンテスト資料作成指導 - 外部講師知財講演会 - TRIZ の活用方法 - 全国知財創造実践甲子園 事前講習参加 - 知財講習会参加 - パテントコンテスト参加 - ロボットコンテスト出場 - 全国知財創造実践甲子園出場 - サンスター文具プレゼンツ 文房具アイデアコンテスト参加 - 特許検索競技大会への参加 Patentfield による AI を用いた先行文献 - 地域・学校に必要なものづくり(課題研究) - 地域産業の研究・企業連携(課題研究) - ものづくりと関連付けた知財学習(課題研究) - 中学生向け知財学習会開催 - 知財力開発事業研究会参加 - 知財力開発事業報告会参加
		2	機械科	機械工作	
		1	機械科	機械設計	
工12	山口県立田布施農工高等学校	1	全学科	産業基礎	- 知財学習会(1学年) - デザインパテントコンテストへの参加 - モノづくりフェア事前指導 - モノづくりフェア参加 - 小学校連携 - 中学校連携 - 老人ホーム訪問 - ティーチャーズものづくり - ロボット製作 - 農工祭
		2	機械制御科	機械工作	
		3	機械制御科	課題研究	
工13	香川県立多度津高等学校	1	機械科	機械工作/座学	- 知的財産基礎と発想力を鍛える(紙で高いタワーを創り発想力を高める訓練) - 競技用ロボット等製作とその技術を活用した便利器具の考案 - 企業講師による鋼材料の溶接技能応用技術習得講習と知財創造セミナー(創造作品製作) - 問題発見・改善シート活用による地域貢献できる装置・器具の発想(アイデア作品の開発) 「知的財産」を意識し、社会に貢献できる人材の育成(探究と知財の関係)
		2	機械科	機械工作/座学	
		3	機械科	機械設計・原動機/座学	
		1~3	溶接部	特別活動/放課後	
		2	技術部	特別活動/放課後	

工14	大分県立中津東高等学校	3	生産システム科	課題研究（授業）	- エコデンカーの製作 - 地域での困りごと解決 - 外部講師招聘
		3	生産システム科	課題研究（授業）	
		全	生産システム科	外部講師招聘	
工15	大分県立大分工業高等学校	1	全	工業技術基礎	- 水力発電装置の研究 - バッテリーの研究 - 水車装置の改良 - 水車装置の設置・実証実験 - 防犯灯の製作・改良 - 知的財産教育講演会 - 科目「工業技術基礎」における探究学習で知的財産を学ぶ - 工業部会主催の夏季研修会 - イノベーション人材養成講座の全校周知と実施 - 専門家講演会・弁理士講演会 - 発明体験ワークショップ参加 - パテントコンテスト出願 - 他校との教材の共同研究
		1～3	全	イノベーション人材養成講座/パテコン	
		1～3	機械・電子	DAIKO水車プロジェクト	
		3	機械	課題研究	
工16	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	1	全クラス	総合的な探究の時間	- 工業技術基礎 - アイデア発想グループワーク - 知的財産教育講演会 - 知的財産推進委員会 - 課題研究での取り組み - パテントコンテストへの挑戦 - 技術アイデアコンテストへの応募 - ロボット競技大会へ参加 - マイコンカーラリー大会への参加
		1	I類6クラス	工業技術基礎	
		3	電子機械系	課題研究	
		全	部活動	機械部、メカトロ部	

商業

学校番号	学校名	学年	学科	科目／形態	取組内容(目的・目標要約)
商 01	宮城県南三陸高等学校	1～3	商業科	課題研究	「知的財産」について知ろう - 高校生が地域の魅力を発信しよう(町内のイベント会場等) - 地域の魅力をみつけよう(町内企業・山林等) - 地域の課題を解決しよう(仙台市商業施設・町内産業フェア・山林等)
		1～3	商業科・普通科	部活動	
		2	普通科	地域学	
		3	普通科	地域探究学	
商 02	東京都立第五商業高等学校	2	ビジネス科	学校設定科目「ビジネスアイデア」	- 地域の会社経営等により知財力の視点から商品・サービスについてアイデアを学ぶ - 地域の会社経営等により知財力の視点からものづくり・ことづくりについて学ぶ

商 03	大阪府立淀商業高等学校	1年	商業科	ビジネス基礎	・弁理士の仕事とは、どのようなものなのか、最近の知財訴訟から知財の基礎知識を学ぶ ・日本の発明・世界の発明・身近な発明を J-PlatPat を使って調べてみる ・安藤百福「インスタントラーメン」誕生秘話についての DVD 鑑賞。創作した人を尊重する意識をつける。 ・「アイデアを伸ばそう」を利用しアイデア創出ワークの実施
		2年	商業科	マーケティング アントレプレナーチャレンジⅠ	・知的財産権の仕組みについて講義形式で学ぶ ・小学生のための自由研究にて、創作活動の楽しさを小学生に伝えた。(活動場所: 淀商業高等学校) ・大阪工業大学知的財産学部の教授による特別講義。身近な商品の権利を理解し、商品や社会とのつながりの理解を深め、商品開発をする時に気を付ける点について学ぶ。 ・若手起業家による「デザイン思考」ワークショップ。創作についての楽しさを学ぶ
		3年	商業科	ビジネス法規 アントレプレナーチャレンジⅡ	・知的財産の知識を頭にいれながら、淀翔モール10周年のオリジナル商品の開発 ・AKINDO SPARKLE 株式会社オリジナル商品。防災備蓄パンの開発 ・東北芸術工科大学主催「全国高等学校デザイン選手権大会」に応募し、外部団体に評価してもらう機会を設ける ・第10回淀翔モールにて、オリジナル商品の販売。淀商業オリジナルマスコットの着ぐるみを創作し披露。
		3年	商業科	商品と流通	・メタバース淀翔モールの開発。知的財産権保護について考慮しながら、新たなメタバース空間の開発を行う。 ・全国産業教育フェア栃木大会にてメタバース空間の披露とオリジナル商品の販売(栃木県宇都宮市) ・株主総会を行い1年間に活動報告を実施する ・茨城県立那珂湊高校への視察研修
商 04	兵庫県立長田商業高等学校	1	創造ビジネス科	地域創造	・専門家を招いてキャラクタービジネスについて学ぶ ・キャラクターデザインとコンテンツについて学ぶ ・キャラクターを使用した販売促進を考える ・水耕栽培を学ぶ ・発電・給水を学ぶ ・プログラムを学ぶ ・制御を学ぶ ・商標登録出願に伴う商標権侵害について ・商標登録出願の書類作成方法 ・新商品開発
		2	創造ビジネス科	地域創造	
		3	創造ビジネス科	地域創造	
		4	商業科	商業科／電子商取引	

水産

学校番号	学校名	学年	学科	科目／形態	取組内容(目的・目標要約)
水 01	愛知県立三谷水産高等学校	2	水産食品科	総合実習	・知財ワークショップ(1年水産食品科) ・知財セミナー ・知財に関する授業 ・知財に関する授業 ・知財アドバイザーセミナー
		1	水産食品科	LT、水産海洋基礎	
		1	4学科	LT、公共、水産海洋基礎	
水 02	兵庫県立香住高等学校	1	海洋科学科	水産海洋基礎	・企業訪問による知財学習(古野電気本社) ・企業訪問による知財学習(ニフレル、安藤百福発明記念館) ・知的財産の魅力に関する講演会 ・アドバイザーによる知財学習 ・J-PlatPat の活用 ・知財の魅力を知る。ペーパータワーの実習 ・缶詰巻締に含まれる特許について ・新商品の開発 ・ブランド魚の創造 ・自然学校の受け入れ ・セリゲームの特許出願に向けて ・研究発表会
		2	海洋科学科	総合実習	
		3	海洋科学科	総合実習	
		3	海洋科学科	水産海洋情報	
		全	海洋科学科、普通科	特別活動	

水 03	愛媛県立宇和島水産高等学校	3	水産食品科	課題研究	・地元自治体(松野町)・地元メディア(FM愛媛)と連携した商品開発 ・産業界(地元養殖業者)と連携した商品開発 ・地元漁協(愛媛県漁協宇和島支所)と連携した商品開発 ・広島県立加計高校と連携した商品開発 ・食品卸会社(三菱食品)・地元企業(イコスイ)と連携した商品開発 ・愛媛県大阪事務所・保安企画(福井県)・地元食品会社(宇和島屋)と連携した商品開発 ・展示会での展示説明 ・弁理士による講義 ・知財アドバイザーによる講義 ・成果報告書作成 ・新しい養殖技術の開発 ・成果報告書作成 ・知財を保護・尊重する意識の育成 ・権利を活用する能力の育成
		2	水産食品科	食品製造	
		全	水産食品科	課外活動	
		3	水産増殖科	課題研究	
		全	水産食品科	課外活動	

家庭

学校番号	学校名	学年	学科	科目／形態	取組内容(目的・目標要約)
家 01	山形県立天童高等学校	1	総合学科	産業社会と人間	・外部講師(弁理士・弁護士)による知的財産権に関する出前講座を1年次生徒対象に行った ・外部講師(弁理士・弁護士)による知的財産権に関する職員研修を行った ・米粉研究家による出前講座において、米粉を使ったお菓子の実習を行った ・さくらんぼハッカあめの PR 活動を県内外(山形駅イベント、群馬県立伊勢崎高校での発表、明治大学イベント))で行った。 ・未来食講座として米粉研究家、地元大学と連携し凍結粉碎米粉の特性や活用法について学ぶと共に、食育イベントに出展し、学習成果を発表した
		2～3	福祉保育総合系列	フードデザイン	
		2～3	ビジネス総合系列	情報Ⅰ	
		1～3	クラブ	家庭クラブ(家庭科科目履修)	

情報

学校番号	学校名	学年	学科	科目／形態	取組内容(目的・目標要約)
情 01	千葉県立柏の葉高等学校	3	情報理数科	情報デザイン	・銭湯マニアのためのノベルティグッズ制作 ・「無駄づくり」とおとした新たな価値の発見 ・オープンソースとライセンス形態/人間拡張技術を用いた新たな価値の創造 ・エンジニアのための知的財産権入門講座
		1	情報理数科	情報産業と社会	
		1～2	情報理数科	学科行事	
情 02	大分県立情報科学高等学校	全	全学科	未来創造部	・染色方法の研究 玉ねぎの皮やさくらの葉、媒染液(鉄や銅)を用いた染色を行い、染まり方の違いを調べた ・SDGs 製品、知育玩具の開発・製作 家庭科と協力しながら大分県版かりゆしウェアの製作に取り組んだ ・出前授業や外部団体との協働 JICA と一緒にアースイベントに出展した。デイスサービスでの活動にも取り組んだ。 ・発明体験/創作体験ワークショップ 大分工業高校でのワークショップに参加した ・パテントコンテスト応募 本校から 3 件を応募した ・工業技術基礎「知財学習」 「紙タワー」でのデザインシンキング、「J-PlatPat」を用いた検索方法についての授業を実施した ・生成 AI と知的財産権の関連についての講習 外部講師を招聘し、「著作権」を中心に「知的財産権」について生成 AI と関連も含めて実施した
		1	全学科	特別授業	
		1	デジタル創造科	工業技術基礎	

福祉

学校 番号	学校名	学年	学科	科目／形 態	取組内容(目的・目標要約)
福 01	東奥学園高 等学校	3	福祉科	介護総合 演習	- 外部講師による知財学習セミナーⅠ - 外部講師による知財学習セミナーⅡ - リーフレット制作(グループディスカッション) - リーフレット制作(ワークショップ) - リーフレット制作(グループディスカッション②) - リーフレット制作(印刷会社との打合せ)

高等専門学校

学校 番号	学校名	学年	学科	科目／形 態	取組内容(目的・目標要約)
専 01	旭川工業高 等専門学校	2	全学科	公共/座学	- IoT 機器などの活用方法の学習 - パテントコンテスト・デザインパテントコンテストへの応募作品の製作 - 弁理士の講演を聴講する - 発明研究会の活動の学内周知 「ものづくり」系部活間の技術交流 - 地域(旭川市)と旭川高専の交流研究会への参加 - 社会に求められている「もの」の調査・アイデア出し・製作
		4	全学科	国際関係 論/座学	
		5	全学科	知的財産 権論/演習 形式	
		全	クラブ 活動	発明研究 会	
専 02	一関工業高 等専門学校	1～5	未来創 造工学 科	なし	- 知的財産管理技能検定3級対策講座の実施 - パテントコンテスト応募支援
		5	未来創 造工学 科	実践技術 Ⅱ	
専 03	大島商船高 等専門学校	2	電子機 械工学 科	創造工学 ／グルー プワーク	- 弁理士によるセミナーの開催 - セミナー参加(ひろしま IT 総合展 2024 広島市) - アイデア創出活動におけるアイデアの保護 - 知財教育用書籍購入、知財教育用物品購入
		4	電子機 械工学 科 情報工 学科	ロングホ ームルー ム／講演	
		5	電子機 械工学 科 情報工 学科	ロングホ ームルー ム／講演	